

第29回

斎王まつり

いにしえの都に遊ぶ



平成23年

6/4(土) (雨天の場合中止)

前夜祭 17時～21時

斎王市 15時～21時

斎宮歴史博物館会場
開会式・斎王他出演者披露

6/5(日) (雨天の場合中止)

禊の儀・斎王群行 13時～15時

上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市

アトラクション 10時～15時

主催 斎王まつり実行委員会
フォトコンテスト作品募集

三重県明和町

配役

齋王
さいおう



竹内 あずみ
(明和町)

子供齋王
こどもさいおう



市野 音衣
(明和町齋宮小)

検非違使
けいびいし



稲垣 明香
(春日井市)

舞人
まいびと



山本 由佳
(志摩市)

近衛使
このえつかい



小田 真麻
(志摩市)

倍従
びじゆう



近藤 加奈
(東海市)

隨身
ずいしん



坂谷 有絵
(伊勢市)

風流傘
ふうりゆうがさ



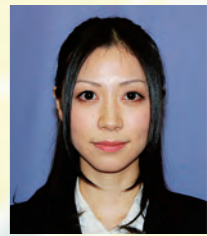
松井 孝悦
(東京都)

内侍
ないし



大谷 廣美
(橿原市)

女別当
にょべつどう



倉谷 美香
(熊野市)



中村 幸美
(明和町)



辻 泰
(鈴鹿市)



中西 功
(玉城町)



早川 哲生
(伊勢市)



長井 理奈
(多気町)



岡村 好美
(鳥羽市)



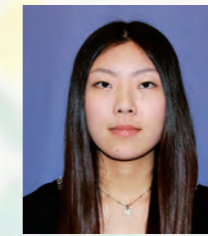
北村 仁美
(岐阜市)



西尾 恵美
(明和町)



堀井 めぐみ
(松阪市)



中北 沙良
(伊勢市)



広野 真智子
(津山市)



小林 和加
(明和町)

輿丁
よちゆう

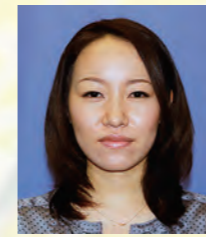


鈴木 直孝
(四日市市)

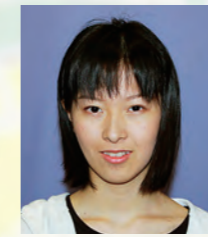


奥田 勲
(四日市市)

命婦
みょうぶ



佐保 めぐみ
(一宮市)

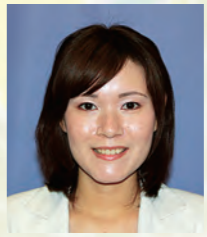


中西 麻佑
(玉城町)

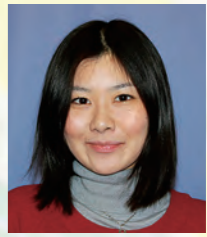


石田 桂
(横浜市)

女孺
にょじゆ



山本 志野
(伊勢市)



田中 千恵
(津市)

采女
さいにょ



三橋 絵理子
(伊勢市)



三浦 彩華
(岡崎市)

女孺
にょじゆ



澤村 優香
(伊勢市)



童・童女 出演者 (順不同)



阪井 あいり



下山 凜



上田 芽依



河井 香



小林 柚輝



森 結那



川北 莉帆



北村 奏羽



濱田 万琳



稲浦 優



小宮 奈桜



山本 怜依



中島 歌音



松田 東子



若宮 綾花



河俣 朱香



中野 真果



山本 怜美



喜多 美稀



河井 美樹



伊藤 好花



福谷 光夏



村田 陽菜



岡本 凪布



田畑 希望



奥田 七海



田中 杏奈



阪井 真有



三宅 亜実



北吉 美優

水千

千早

あこめ

斎王まつり二十九回を迎える

斎王まつり実行委員会 広報班

『第二十九回斎王まつり』今年も華々しく開催されます。

でも、2011年は東日本大震災に見舞われ、たくさんの方々が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災、諸外国から日本人を賞賛するコメントが多く寄せられたようです。

地震から津波発生時間が短かったのに避難するにも「思いやりの姿」被災地での「冷静さとマナーの良さ」また「秩序が乱れない」など、物資配給がままならないときでも、略奪など皆無であることが高く評価されたようです。

日本人として誇りに思います。

『日本人の美徳』これは、今に始まったものではなく先人たちから受け継いだ精神だと思えます。

私達は、もともとずっと先人たちを知り・学ぶことで日本人らしさを未来へ継承していけるのではないのでしょうか。

サブテーマ『いにしへの都に遊ぶ』

はるか悠久の風を…心を…ここ竹の都斎宮で味わっていただければさいわいです。

なお当日、東日本大震災の義援金を募りたいと思います。何卒よろしくお願いします。

(雨天中止) 6/5(日)

(雨天中止) 6/4(土)

斎王市

15:00 ~ 21:00

前夜祭

17:00 ~ 21:00

斎宮歴史博物館会場
開会式

特別ゲスト

カーボンパンチ
斎王他出演者紹介

斎王市

10:00 ~ 15:00
アトラクション

斎宮歴史博物館会場
ステージで
各種アトラクション

禊の儀・出発式

13:00 ~ 13:30

上園芝生ひろば(斎宮駅北側)

斎王群行

13:30 ~ 14:30

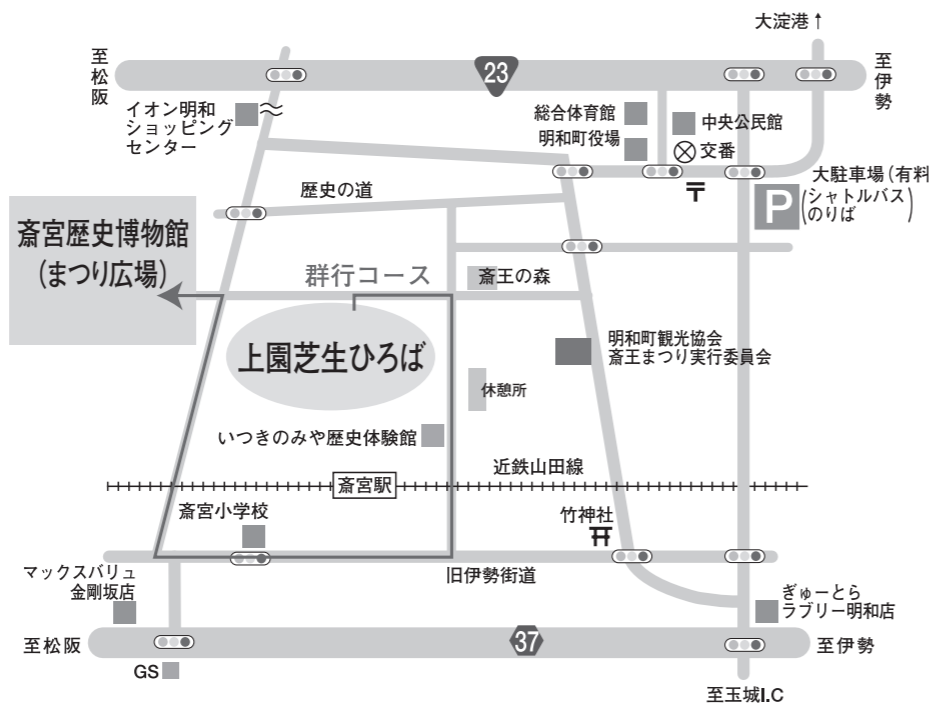
上園芝生広場から
斎宮歴史博物館会場まで

社頭の儀

14:30 ~ 15:00

もくじ

斎王まつり配役……………	2
斎王まつり童・童女出演者……………	4
斎宮の歴史語り(その五)……………	6
斎宮跡の発掘調査……………	9
映像展示「斎王群行」と 斎王良子内親王……………	11
いつきのみや歴史体験館……………	13
斎王まつり実行委員のページ……………	14
図書の紹介/実行委員会組織体制……………	22
斎王まつり実行委員会活動……………	23
群行衣裳……………	24
フォトコンテスト……………	26
第28回斎王まつりの思い出……………	28



斎宮の歴史語り (その五)

ふるさとの語り部 山川 充造



『斎王をひもとく』をテーマとしてこの稿に取り組んで十年ほどになる。このこととは別に斎宮の『語り部』ボランティア・ガイドとして、

遺跡現地で一週間に二回ほどは担当している時折を、旅の人々と交わす斎宮の歴史会話の中には、日本人として共通ものを感じる話題に進展することが多い。

千三百年昔より、この地に六六二年間続いた斎宮の歴史と五十数人の斎王と数えられる女性たちの生き様は古代王朝につながる日本文化の変

皇女伊勢斎王に侍る』とある。斎宮歴史二代目の斎王であり、母は六人臣大麻呂の女として朝廷の近くに仕えていたのであろうと『続・日本紀』は伝える。

古典の中の記述には幾通りにも読める名詞があり、博物館や体験館の年表に載る斎王の名前を確実に読める方は居ないし、伝わっていない。これはガイドの時に常に話題になる部分である。

思い出せば多紀斎王は朱鳥元年(六八六)年当時斎宮に在った異母姉『天来斎王』の所へ数人の異母姉妹と共に遊びに来た姫の一人であった。七百一年、多紀斎王は在位四年ほどで退位し、万葉集に拠れば、天智天皇の第七皇子志貴の妃となり、万葉歌人・春日王の母となっている。

七百五年『続日本紀』文武紀二月一九日には、神宮や斎宮に仕える者、老人の女以外は垂髪を禁じ、結髪せよとの出された規定を見ても、遡れば六八二年一二月、大来斎王の

遷を知る楽しい歴史遊びの空間でもあろう。

私たちにとって、一級文献であろうと、或いは、それら文献の孫引き史料であろうとも、名のある可憐な花を過つては『竹の都』と呼ばれた野に競わせた苦勞の時代があったことは、身近に歴史をひもとく者として懐かしさの想いと、そこに住む者としての幸せを感じる時がある。

私は斎宮遺跡の近くに住み、歴史を自分なりの活字に起こし、ボラン

時に出された『結髪・垂髪』禁止令と同じく、国内には混乱や流行病の蔓延する中を、泉内親王は卜定後六年目にやつと三代目斎王として伊勢群行に向かった。年齢や斎王としての任期や退下の理由は分かっていない。わずかな参考史料として、

七百六年八月、四代田形内親王(母は蘇我赤兄の女)が卜定された記録がある。単純に判断すれば三代と四代の斎王は半年を経ずに交代したことになる。先にも述べてきた『垂髪禁止令』や国内に蔓延した疫病に関連した国の中には問題が多かったであろう。田形斎王も一年程で退下した後、縁あって『六人部王』の妻となり、万葉歌人・笠縫女王の母と伝えられる。

近代になって、この頃の物と思われる『伊都支宮奴婢』と書かれた木簡の削りくずが藤原宮跡の井戸から発掘されているが、この斎宮の地は台地であり、同じ時代の陶器等の学術的な焼き物は発掘されているが時

ティア・ガイド仲間たちと地域のガイドを楽しむ雰囲気の中、今年も斎王祭りの日が近くなってきた。

今年の稿には来客の中に、「女性哀史」の言葉があったと書いた。

来客の中には、古代王朝歴史の中に自意識の強い解釈を取り込んだ話題を提供してくださる方もあり、ある時はそれらも新鮮な話題として吸収させて頂いてきた。

すでに何回かこの地に来られ、以前に書いた記事を話題にされたこともあった。

『春過ぎて夏来たるらし白栲の衣乾したり天の香具山』に異論を出されたことがある。

私にも、確か教科書では、『春過ぎて夏来にけらし白栲の衣乾してふ天の香具山』と習った記憶があるが、いま五十の坂を遙か昔に超えた私の脳裏には、教科書記述は資料としてはなく、韻律の良い歌の情景が浮かぶ瞬間であり想いである。

この地への訪問者は北海道から沖

代を考証出来る木片すら出土していない。

七百七年六月田形斎王退下、理由は父・文武天皇(在位十年、草壁皇子の子)崩御である。

前任の泉斎王とは数か月の交代であった。

史料に拠れば大宝律令といった国の指針に定められていった斎王制度にも、この頃に名の残る数代の斎王は曖昧な部分の多い歴史として記されているのみである。

◎律令 奈良・平安時代の法律
律は刑罰についての法令。
令は一般の法令。

参考史料

斎宮志 山中智恵子

竹の斎王語り 山川修司

縄ある時は外国の方もあり、各地の方言やお互いがカタコトで和やかに通じ合うように思う。

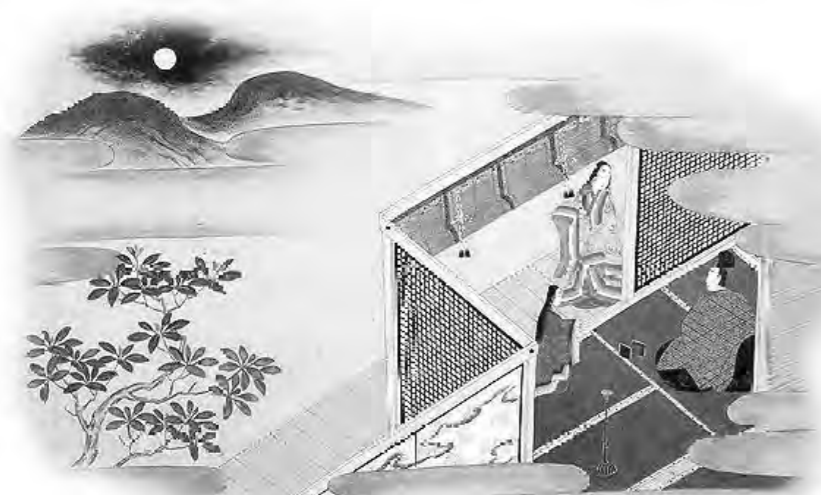
七百一年、大宝律令が完成し、日本国の中枢は近隣先進国に倣った王朝文化に染まった支配が続くようになっていった。

振り向けばこの律令時代より、その中身には伊勢神宮の遷宮のことや、関連して亀卜による斎宮行事の決め事が実行されるようになっていった。

今年の稿に、泉斎王が選出された時代は短期間な朝廷の異動に関連していたと書いた。それらに伴って試行錯誤されてきた国の制度も『法』として組み込まれ、律令のあり方は走りながら大宝律令の肉付けをしていった感がある。

遡れば六八二年、神と詠まれた天武朝の国を治める手段の中にも『衣服・結髪・垂髪』令が出された時代があった。

六九八年の史料によれば、『多紀



斎王の伊勢滞在期間は短くて一年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

*は女王(天皇の娘以外の皇族女性)
「」内は実在の確認できない斎王
△は斎宮に群行しなかった斎王

Table with 4 columns: 時代 (Era), 歴代斎王 (Historical Empress Dowager), 在任期間(年) (Reign in years), 天皇 (Emperor), 西暦 (Gregorian Calendar), 歴史上のできごと (Historical Events). Rows include 平安, 奈良, 飛鳥, and 伝説の時代の斎王.

平成22年度の 斎宮跡の発掘調査



平成22年度 史跡斎宮跡発掘調査区位置図

Table listing names and reigns of Empress Dowagers across different eras: 南北朝 (Nanpoku), 鎌倉 (Kamakura), 平安 (Heian), and 伝説の時代の斎王 (Imperial Household Agency). It includes names like 柔子, 雅子, 昌子, etc., along with their reign dates and historical notes.

平成二十二年度は、史跡東部に広がる平安時代に造られた方格地割内で四か所の調査を行いました。「柳原区画・牛葉東区画」では、区画の性格や建物の配置などを確認するために、「下園東・御館区画」では区画道路の位置を確認するための調査を行いました。

「柳原区画」の調査

柳原区画は平安時代の方格地割のほぼ中央部にあたり、南には斎王の居所である内院に想定されている牛葉東区画が位置しています。これまでの調査で柳原区画では、四面庇付建物を中心とした庇を持つ格式の高い建物群が見つかっています。

第一六七次調査では、主に奈良時代後期から平安時代後期にかけての掘立柱建物二八棟をはじめ井戸や土坑、溝など多数の遺構を確認しました。出土した遺物のうち、器の内外面に花文が描かれた緑釉陶器は、色も鮮やかでつくりの丁寧な高級品と考えられるので、柳原区画が重要な場所であったことを示す資料と言えます。柳

原区画では、区画の南半部に庇を持つ格式の高い建物群があり、ここで儀礼などを行っていたのではないかと考えられます。その一方で、区画の北半部では小規模な建物が多数見つかっており、今回の調査で確認された建物群は、区画の中心施設である南半部の建物を支える建物だったと考えられます。

牛葉西區画の調査

第一七一次調査区は、牛葉東区画の北東部、内院を囲む柵列の外側に位置しています。今回の調査では、平安時代後期から末期の溝を確認しました。牛葉東区画内では、平安時代後期になると溝で囲まれた小区画がいくつもつくられています。今回確認された溝は、土層の観察より三回以上掘削されていました。溝の中からは、多量の土師器とともに基石と思われる白色の玉石や釘などの金属製品も出土しています。また、調査区北端では、溝群よりも古い掘立柱建物一棟も見つかりました。



167次調査区全景

区画道路の調査

第一六八次調査区は、下園東区画の南東部に位置し、方格地割の柳原区画と下園東区画間の東西区画道路を確認することを目的に調査を行いました。調査の結果、調査区南端で幅約一・五メートルの北側溝を確認しました。南側の第一五六次調査区では、この道路の南側溝を確認しており、側溝を含めた道路幅が五〇尺（約一五メートル）であったことも確認しました。

また、出土した遺物の中には、「殿部」「上大口」と書かれた墨書土器も出土しており、下園東区画周辺の性格を考える上で、重要な遺物と考えられます。

第一六九次調査は、御館区画と牛葉西区画間の東西区画道路の北側溝を確認する目的で調査を行いました。調査区の大半が近世以降の掘削によって大きく削平されており、道路側溝は確認することは出来ませんでした。

齋宮跡の公開と整備活用

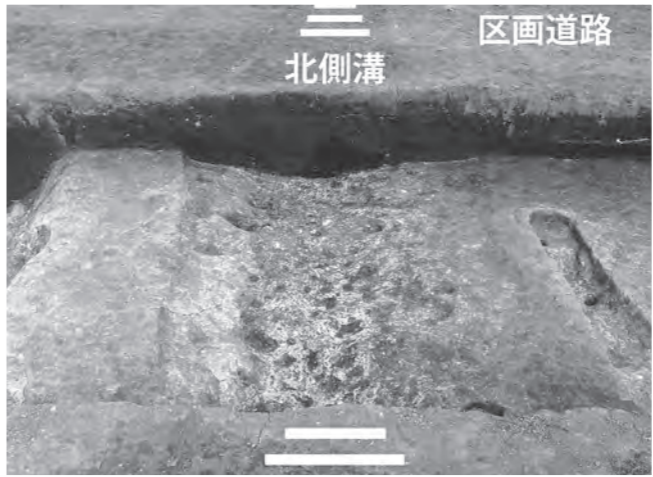
齋宮歴史博物館では、多くの方々に齋宮

跡に親しんで頂けるようホームページなど

による情報発信や様々なイベントを行っています。齋宮跡発掘調査の最前線をお伝えする「現地説明会」や、小中学生を対象とした「夏休み体験発掘」、一般の方々を対象とした「発掘調査体験ウィーク」も行っていきます。発掘調査期間中は、随時現場公開を行っておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

また、柳原区画周辺では、平成二六年度（一部二七年度）の完成を目指し、実物大の復元建物三棟を含む歴史公園整備を進めています。齋宮歴史博物館では、よりよい整備を行うために、「齋宮跡の史跡整備を語るつどい」などを開催し、地域の方々や齋宮跡に興味のある多くの方々と共に進めていきたいと考えております。イベントの開催や整備の進捗状況については、博物館のホームページやかわらばんを通じて公開しておりますので、こちらもお気軽にご参加下さい。

（齋宮歴史博物館 技師 新名強）
齋宮歴史博物館ホームページ
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/saiku/>



区画道路北側溝(168次調査区)



現地説明会風景



発掘体験ウィーク風景

映像展示「齋王群行」と齋王良子内親王

齋宮歴史博物館は、展示を通して「齋王とは何か」を皆様にご覧いただき、また、その宮殿跡だった史跡齋宮跡に一層の興味や関心をお持ちいただくための施設です。そしてその導入部分と位置づけているのが、映像展示「齋王群行」です。

この映像は、齋王の「都から天皇の代わりとして、人々と別れてはるばる旅をしてくるお姫さま」という特徴をまずご理解いただき、その後で展示室を見学する時に、より齋宮に親しんでいただくことを目的に作られています。その主人公として取り上げられていますのが、これからご紹介する良子内親王です。

天皇の娘の齋王

「良子」と書いて「ながこ」と読みます。じつは齋王で、その名前の

読み方が記録されている人はとても

少なく、博物館でも「たぶんこういう感じ」で、漢字の意味から訓読みを充てているにすぎません。その読み方がわかっている数少ない一人がこの人です。良子内親王は、齋王になった時に、「良子」と名付けた（たぶんそれまでは「女一宮」とだけ呼ばれていたか、別の幼名があった）と『範囲朝臣記』という日記に記録があり、そこには注として「良の字は長と読む」と書かれています。

「良」と「長」に共通する訓読みは「なが」ですから、「よしこ」ではなく、「ながこ」だとわかるわけですね。

この一事だけでもお気づきのようには、良子内親王には、他の齋王には見られない色々な史料が残されています。それは彼女が天皇の娘の齋王だったからです。良子が齋王になったのは長元九年（一〇三六）、この時

代に、その時の天皇の娘が齋王になるのは希でした。良子より前の百年

間で齋王は13人を数えますが、良子のようにその時に父が天皇だった人は三人しかいません。そして良子の前となると二代前の三条天皇代の子内親王となりますが、三条天皇は当時の権力者、藤原道長と対立して退位に追い込まれた天皇です。そしてその子の敦明親王は皇太子になつたものの、道長の圧迫で退位してしまします。さらに齋王の当子内親王は、帰京の後、藤原道雅という貴族と恋に落ちて、父天皇に猛反対されて髪を切り、尼になるという苛烈な人生を歩むのです。このような場合、

この時代の感覚では、天皇の娘が齋王になるというのは、いい前例にはなりません。しかも良子内親王の母は、三条天皇の娘の禎子内親王、つまり当子齋王の姪にもあたるのです。

齋宮歴史博物館

じつは良子が齋王になる少し前、伊勢神宮荒祭宮が時の齋王に託宣して、齋宮頭の不実と、朝廷の無関心を糾弾するという事件がありました。朝廷としては、神宮に誠意を見せる必要があったのです。しかしこの時代、皇族の女性は、内親王・女王ともに非常に少なかったようです。この時点で後朱雀天皇には兄弟はなく（未婚の姉が一人）、姪は亡兄の後一条天皇の娘だけ。そして父の一条天皇は一人っ子で、その従兄弟はみな源氏を賜姓され、皇族ではなくなっています。その前の天皇は三条天皇で、その子孫は政治的に没落、という状態でした。

つまり神宮への恐れと、候補者不在という厳しい状況の中で良子内親王は齋王となったのであり、その役割は極めて重大なものだったのです。

さて、良子内親王が齋王になったのには、こうした複雑な事情があったわけなのですが「齋王群行」を見ると、彼女の旅には色々な不備があったようです。野洲川を渡る時に橋が壊れていたとか、鈴鹿頓宮では何の準備もできていなかった、とか、齋宮に来たのに日が悪いので入れなかった、とか。これらはいずれも、随行した藤原資房の日記『春記』に出てくるエピソードです。この頃の地方支配は、受領と呼ばれる国司が、請負う形で行われます。文字通り、任期の間は国を「受領」しているわけで、中央政府の詳しいチェックは交替の時までは入れないのです。従って、政府の命令がどこまで行き渡っているか、というのは現地に行ってみないと意外にわからないものでした。もつとも、群行などの場合は、そのために先触れの使が出て準備をしておくのが決まりでした。ところ

が、この時の使を務めた源頼兼という人物は、どうやらかなりわがままでいい加減だったらしく、鈴鹿や齋宮で現地の人たちとトラブルを起こしており、それが準備不足の一因となっていたのです。よくお客様から、事前に日が悪いことはわからなかったのか、という質問をいただきますが、『春記』の原文にも「日次よろしからず」と齋宮で言われ、著者資房の宿舎すら用意されておらず、同行者は草廬のような建物に入れられたと、いらだちを隠せない書き方をしています。ということは、この一行のために住居を一晚追い出された近所の人たちが沢山いたのではないかと、心配になります。

さて、齋王としての良子内親王は、『目合』という貝でいろいろな模型を作って歌を詠み合う遊びをする記録があるなど、雅びな暮らしを送っていました。もつとも、齋宮頭と齋宮

の女官たちとトラブルを起こし、一部の女官が京に引き上げるといような事件もおこったりしています。その時の齋宮頭は、あの源頼兼だったそうです。つくづく迷惑な奴。

しかし良子の齋宮での日々は、そんな平穏なものばかりではありませんでした。着任の翌年、伊勢神宮の外宮が台風のため倒壊する、という大事件が起こります。朝廷は大騒ぎになり、父の後朱雀天皇は自らの不徳の致す所だから、伊勢神宮に謝りに行く、とまで言い出します。この時に良子内親王は、伊勢の神に祈っていた時にお告げを受けます。それは、「奉幣使を送るといことだが、神の居所が定まらないのに慌てて送ってはいけない、修復されてからにしない」というものでした。大騒ぎせず、まず事態を收拾させなさい、ということのようです。さらに恐ろしく、おののく後朱雀天皇に対して、齋宮女房からは「これは天皇のお憤み(素行)の結果おこったのではなく、天下に大事件がある兆しだ」との連絡

もありました。齋王としての助言を父に送っていたことがわかります。そしてこの直後に内裏が火事で焼けるというそれ以上の大事件が起こり、この時にも良子は予知夢を見たと言っています。



紙芝居の中の「ながこひめ」

齋王の暮らしにおもいをはせて 十二単に身を包む —いつきのみや歴史体験館—

近鉄齋宮駅のホームに降り立つと、その北側にある大きな木造建築の「いつきのみや歴史体験館」が目にはいります。齋宮が最も栄えた平安時代の年中行事や文化にふれながら、華やかな貴族の暮らしを様々なメニューで体験できる施設です。

平安貴族の邸宅である寝殿造をモデルに建てられた館内に入ると、御簾や几帳が配されていて、平安時代にタイムスリップしたような気分です。盤双六や貝覆い、蹴鞠といった古代の遊びなどを体験できます。

一番人気の体験は、十二単や直衣などの平安装束の試着体験。予約制で有料の体験ですが、平安貴族にあこがれる女性たちが全国から訪れて、十二単に身を包みます。

最初に緋色の長袴を身につけると、鮮やかな赤い色ときゅつと締まる腰ひもに背筋が伸びる気がして、色鮮やかな絹の衣を一枚一枚着重ねるごとに、その重みとともに気持ちも平安貴族に変身していきます。最後に身につける裳の裾が床に広げられると、その白く波打つような美しさにうっとり。

体験に参加する人は、十二単に憧れをいただき、念願を叶えるために予約する人ももちろん、旅行に来て思いがけなく体験する人もいます。装束を着た時の笑顔はみんな同じで、雅びな気分を味わい、華やいだ笑顔を見せてくれます。

館内には、齋王が京の都から齋宮にやってくる群行に使用

した豪華輿があり、その乗り心地を体験しながら、齋王がひとりどでを離れるときの気持ちをおもってみたり...

また中庭からは、隣接する齋宮跡歴史ロマン広場にある齋宮跡を十分の一サイズに縮めた野外模型を一望することができます。齋王が住んでいた宮殿や役所の様子もよくわかります。ノハナシウプの咲くころ、王朝ロマンあふれる齋宮の地で、平安文化を体験しながら齋王の暮らしにおもいをはせてみませんか。



試着体験

平安装束の試着体験(予約制)

一日2回(10時30分/14時)各回1組2名まで

(装束は十二単・直衣・水干・細長汗衫より2種類を選択)

【参加費】 十二単・直衣/各2500円

水干・細長汗衫/各1000円

※毎月第三日曜は家族試着デー。各回1組4名まで体験可。

いつきのみや歴史体験館

三重県多気郡明和町齋宮3046番地25
TEL.0596-52-3890 ホームページ <http://itukinomiya.ne.jp>

併設の国史跡齋宮跡休憩所(いつき茶屋)では「ひじきうどん」が人気メニュー。明和町特産品などのお土産も販売。

【入館料】無料 【開館時間】9:30~17:00

【休館日】月曜日(祝日の場合を除く)、祝日の翌日、年末年始

【交通案内】近鉄齋宮駅下車すぐ 伊勢自動車道玉城ICより約20分



貝覆い

齋王まつり 研修旅行

今回の訪問先は京都市向日市と長岡京市です。まず向日市を訪問します。

向日市は竹の里として知られています。齋宮も竹に縁の深い地です。昔、齋宮は竹の都と呼ばれていました。多気郡の由来なども、竹のゆらいによるものです。

『齋宮村郷土史』によると、「古代に大和の国の天香具山の竹を移し植えた所だと言ひ伝えられている。俗に寒竹(原文・漢竹)に類するもので、細くて短い竹であった。この藪もすでに開墾され農地になっているとあります。

天香具山は、奈良県橿原市南浦町に所在する大和三山のひとつです。天香具山は天から降ってきた山であるという伝承のある山です。天から降ってきた山に自生していた竹を齋宮に移し植え、その竹の株が呉竹の

藪となり、しだいに竹の都と呼ばれるようになっていったのではないかと考えられます。大字齋宮小字中町に『呉竹の藪跡』という標柱があります。以前の地名は、大字齋宮笛川で、現在の地名は中町です。

中町から役場に至る道路から50m程東側に平行するエンマ川沿いの小道にあります。呉竹の藪跡の竹は笛の素材にも適していたとされていますので、竹笛として使われ、在産業平などの貴族や、齋宮寮で働く男官も、呉竹の藪近くの笛川橋のたもとで、笛を吹いていたのかもしれない。

呉竹の藪跡に佇むと、不思議なもので、地面から土の声・歴史の音が聞こえてくるように思えます。齋宮寮の盛んな頃は、齋王や女官たちの潤いの場として使われていたに違いありません。いずれにしても、呉竹

の藪跡は、竹の都と呼ばれた齋宮の原点といえる場所かもしれないのです。(八田明美)

①訪問場所 桓武天皇皇后陵

桓武天皇は長岡京を遷都した天皇です。桓武天皇は、第五十代とされる天皇で、名は山部。山部親王と呼ばれていました。光仁天皇(白壁王)の初婚の妻、高野新笠が母です。母は渡来系で身分が低い。桓



桓武天皇皇后陵

武の皇后は、藤原乙牟漏といい、式家藤原良継の娘です。父親の光仁天皇(天皇在位期間七七〇〜七八二)の病氣理由の引退により、長子の桓武天皇(天皇在位期間七八一〜八〇六)が受け継いだ。天応元年、桓武天皇四十五歳の時でした。血統は、天智天皇。壬申の乱以来、天武系の天皇が即位していた経過を考えれば、異例のことです。光仁―桓武と天皇に即位できたのは藤原百川の暗躍があったとされています。藤原氏の後押しがあったのです。

曾祖父が天智天皇である桓武は、奈良朝(平城)における天武天皇系の歴代天皇とは異なる政策を進めました。長岡京と平安京という2つの都の造営事業です。延暦三年(七八四)から延暦十三(七九四)年まで長岡京を首都としました。首都期間は十年です。もうひとつは、蝦夷征伐を中心とする東国経営でした。父親の光仁天皇は天皇に即位すると、皇后には、妃の井上内親王をすえました。井上内親王は、文武天

④訪問場所 向日市文化資料館

図書館に隣接しています。



向日市文化資料館

⑤訪問地 向日市 大極殿跡 朝堂院 等

向日市には、長岡京の核である大極殿跡や、朝堂院、内裏内郭築地回廊が発掘調査され、史跡公園として整備されています。

大極殿公園 鶏冠井町大極殿・祓所 七八四年桓武天皇により造営された長岡京の中心、大極殿の跡。大極殿は朝堂院で行われる政務や儀式の際に、天皇が臨御する場所です。毎年十一月十一日には、大極殿祭が催されます。

朝堂院公園 鶏冠井町山畑 朝堂院は、現在の国会議事堂と迎賓館の機能をあわせたような施設です。



史跡 長岡宮跡の碑

皇を父として、皇太子の地位にあつた首皇子のちの聖武天皇の娘で天武系でした。井上内親王は五歳で卜定され、聖武天皇即位後に11歳で、齋宮に群行しています。光仁天皇と井上内親王の娘である酒人内親王も齋王になりました。その酒人内親王も、退下後に、桓武天皇の妃となつて、その娘の朝原内親王が、また、齋王になっていきます。三代の齋王は異例でした。(八田明美)

②訪問場所 向日市 竹の径



竹の径

竹穂垣、古墳垣、寺戸垣、物集女垣、来迎寺垣、かぐや垣、深田垣と7種類の竹垣が整然と連なる全長約1.8キロの孟宗竹林に竹垣を連ねた竹林道です。木漏れ日を浴びながら竹林浴をすると、齋王まつ

③訪問場所 洛西竹林公園 竹の資料館



竹の資料館

りの舞台ヒントになる竹垣がみつかるかもしれません。また、竹にまつわる地域おこしの一環として齋宮にも、このような竹の径を提案させていただきます。向日市では十月下旬に「竹の径・かぐやの夕べ」が行われ、四千本の竹行灯からろうそくの灯が彩られます。また、乙訓地方の竹林は「かぐや姫」伝説発祥の地ともいわれています。尚、竹の径は、国土交通省「手づくり郷土賞」、全国遊歩百選、日本ウォーキング協会「全国歩きたくなる道500選」など数々の賞に選ばれています。

⑥ 島坂（石塔寺）

藤原種継暗殺の地です。道が狭く駐車できません。バスで、その前を通ることになっています。

⑦ 訪問場所 長岡京市 乙訓寺

現在は牡丹の寺として有名です。乙訓地域に現存する最も古い寺院です。

延暦四年（七八五年）に早良親王が幽閉された寺で早良親王は桓武天



乙訓寺入り口

皇の弟です。「日本紀略」によると桓武天皇が長岡京に遷都したとき、弟の早良親王は三十四歳でした。遷都の翌年、七八五年九月に桓武の寵臣であった藤原種継が暗殺される事件がおこります。犯人の首謀者が万葉集の編者で有名な大伴宿禰家持であり早良のための謀略であったとわかれます。この罪で家持は隠岐に流罪、早良は乙訓寺に幽閉された後、淡路に流される途中で亡くなります。

この事件の真相は、嫡子として第一皇子であった安殿親王の立太子を実現しようとする桓武周辺の政治的策略であったと考えられています。しかし、この事件以降、皇后乙牟漏が亡くなり、安殿も病気がちになります。

⑧ 訪問場所 長岡京市 長岡天満宮

長岡天満宮は、菅原道真公が九州に行かれる前にたびたび在原業平と詩歌管弦を楽しんだことで知られています。

竹ゆかりの地 長岡京を訪ねて

八田明美

乙訓地方は、古来より、かぐや姫伝説の地として知られた竹に縁の深い地です。

桓武天皇が遷都し、平安京へ都を移すまでの一〇年間、華やかに栄えていました。

齋王という視点からみても桓武天皇周辺は、重要な位置にあります。

桓武天皇の父である光仁天皇は、天皇に即位すると、妃の井上内親王をすえました。井上内親王は、文武天皇を父として、皇太子の地位にあった首皇子のちの聖武天皇の娘で、天武系でした。井上内親王は、五歳で卜定され聖武天皇即位後に、十一歳で齋宮に群行しています。光仁天皇と井上内親王の娘である酒人内親王も齋王になりました。その酒人内親王も、退下後に桓武天皇の妃にな

って、その娘の朝原内親王が、また齋王になっています。三代の齋王は異例でした。

井上内親王は、齋王在任中に齋宮を飛躍的に発展させた人として知られています。齋宮寮の官人が任命され十三司を定められるなど整備拡充が進められました。結果的に齋王制度の礎を築きました。皇后となった酒人内親王は、竹に縁の深い齋宮の竹林などを思いだしていたのでしようか。笹風の匂いや青竹に心癒されていたのかもしれませんが。齋宮の呉竹の藪跡にあった竹は、笹の素材に適切していたとされていますので、齋宮寮で働く男官なども呉竹の藪近くの笛川橋のたもとで竹笛を吹いていたことでしょう。現在、向日市竹の径は、竹穂垣、古墳垣、寺戸垣、物集女垣、来迎寺垣、かぐや垣、深田垣と七種類の竹垣が、整然と連なる全長一、八キロの孟宗竹竹林道です。齋宮にも、このような竹の径ができれば、地元に住む私達や、訪れ

る観光客にも潤いをあたえてくれることでしょう。

親子三代の齋王、井上・酒人・朝原という姫たちの心も、齋宮に吹く竹林の風に穏やかに、微笑んでいるような気がします。

この研修旅行にあたり、事前打ち合わせ等、長岡京ガイドボランティアの皆様、向日市文化資料館、向日市の皆様、向日市文化資料館ボランティアガイドの皆様は大変お世話になりました。記して感謝申しあげます。これを御縁に長岡京と齋宮の交流を深めていきたいと思っております。

地域おこしの一環として活動している齋王まつりです。六月第一土日には姫さまの十二単姿や艶やかに歩く内侍・命婦・采女・女孺などの着物姿も御覧になれます。

花菖蒲の咲く頃、着物姿の溢れる町、齋宮へ是非お越しください。

竹の径を歩いて

八田秀穂

齋王まつりに参加して二十九年目になります。今年の研修旅行は、娘とともに、竹の径を歩きました。竹の径は、竹に縁の深い齋宮に参考になりました。

呉竹の藪跡周辺は、小さい頃から慣れ親しんでいる所です。呉竹の藪は、天の香具山から竹を移しかえたと、言い伝えられています。竹に縁が深いのです。齋宮にも、このような竹の径ができ、ふるさとの憩いの場所となれば大変嬉しいのです。洛西竹林公園の竹の資料館では、たくさん竹を見学しました。

事前打ち合わせ等でお世話になりました向日市文化資料館、向日市ガイドボランティアの皆様、長岡京市ガイドボランティアの皆様は心よりお礼申しあげます。



長岡天満宮

京都洛西の向日市、長岡京市の歴史を訪ねる研修

中川裕正



向日市には数年前に春の桜、秋野紅葉などの行楽には訪れてはいま

岡京」へ・・・

最初に訪れたのは、桓武天皇皇后の藤原乙牟漏の墓とされる陵墓へ参る。記念写真を・・・

桜は長岡宮築地跡の桜の路、躑躅の名所の長岡天満宮、紅葉は西山粟生の光明寺などはとても良い観光地です。

長岡京は、桓武天皇が七八四年（延暦三年）十一月、奈良の都の平城京を廃止して、平安京に遷都するまでの十年間、現在の向日市・長岡京市・大山崎町の一部におかれた都です。

また近隣には西国三十三カ寺の二十番札所『善峯寺』があり、山門の石段を上ると五葉松で「遊龍の松」があり松の寺として有名、また東には天王山がある、

この遺跡の発掘は昭和三十年頃に地元の歴史地理学者、中山修一氏らが「長岡京の都は必ず発見される」と古代の都への情熱で発掘が進められて、朝堂院南門跡の発見、大極殿跡、小安殿跡などが次々と発掘されて行った。大極殿は今は街中にあり

麓には「秀吉の路」陶板画で秀吉天下取りの物語を解説している。他にアサヒビールの大山崎山荘美術館などがある。この研修は歴史探訪で先ずは埋もれていた古代の『長

史跡大極殿公園として整備されていた。大極殿は瓦葺きで礎石に朱塗りの柱が立つ立派な建物であったという。

天皇が政務、儀式を行う際、臨御する場所でもある。また、元日や即位式に前庭にのぼりを旗を立てる「宝幢」の赤い柱が七本復元されている。

インの古墳垣があった。

さらに竹垣は矢来垣を応用した「古墳垣」「寺戸垣」「物集女垣」「かぐや垣」などで竹の径の整備に向日市はなお一層の力をいれていた。

大極殿から数キロ先に向日市が観光に力を入れている『竹の径』へバスで移動する。竹の径は市の北西部の丘陵に位置している。地域は古墳、トリムコースなど市民のウォーキングや散策の場として、また多くの観光客にも親しまれている。竹の枝を1.5メートルの高さに束ねた「竹穂垣」竹林道の両側は情感豊かな風情があった。途中には古代時代の前期の前方後円墳の「寺戸大塚古墳」があり、墳丘は長さ95m、高さ9mで後円部は三段構成直径54m高さ9.8m前方部は二段構成で前端幅38mくびれ部は35mもある。中国製の三角縁神獸鏡や浮彫式獸帯鏡、刀剣、鉄斧、勾玉まど多くの出土品があり向日市文化資料博物館に展示されていた。また竹の径には古墳のイメージしたデザ

次に乙訓寺へ、この寺は乙訓地方（向日市、長岡京市、大山崎町の桂川右岸に位置）にあり推古天皇の勅願寺として聖徳太子が創建したと伝えられている。本尊は十一面観世音菩薩で聖徳太子の建立である。なお桓武天皇は延暦三年（七四八年）に長岡に遷都されたとき乙訓寺を大増築され翌四年、藤原種継が春、官房の人々により暗殺されるや桓武天皇は皇太子早良親王を当寺に幽閉された。しかしその後この寺も幾多の歴史を重ね、永祿年間に織田信長の兵火により一時衰微したが元禄六年、五代將軍の綱吉が堂宇を再建して乙訓寺法度をつくり寺領を徳川家の祈願寺とした。

寺宝に重要文化財の毘沙門天立像がある。この毘沙門天像は寄木造り



で鮮やかな色彩を残し眉間にしわをよせた表情があり独特な仏像でした。

最後に長岡京市の長岡天満宮と八条ヶ池へ、この天満宮は菅原道真が太宰府に左遷される時に名残を惜しむために訪れたといわれ、道真の祭神として奉っている。また道真は天満宮では在原業平らと共に度々詩歌管弦を愉しんだそう。九州配流に際して都を振り返り名残を惜しむ歌を詠んだことで「見返りの天神」とも云われている。八条ヶ池には三つの石橋が架かりその石橋の間には市指定天然記念物の霧島つつじが植えられて五月には大変な人出だそうです。

以上多くの歴史史跡を探訪することが出来て有意義な研修でした。

長岡京と女系三代齋王

齋王まつり実行委員会

長岡京は都としては平城京から平安京へ遷都される一〇年間存在していたことは承知していた、そうすると平城京の廃都は七八四年かと思いつながら関連資料を探すこととした。

都であったことからこれらの都は存在が薄い。長岡京跡は住宅地であることから発掘・調査は困難であったと思うが大極殿跡も発掘されており完全な中央政治の場であったことがわかる。「皆様方で長岡京のPRをよろしく」と言われたガイドさん、「本紙にはちやんと載っています」と答えておきました。

聖武天皇時代（在位七二四～七四九）の恭仁京（七四〇～七四四）難波京（遷都せず？）紫香樂宮（七四五）、これは唐ならつて三都制を施行としてのではないかと思われるが、いずれも火災、天災害により失い、五年後に再び平城京へ戻りその後四〇年を経て平城京を七八四年に廃都し長岡京へと遷都することになる。

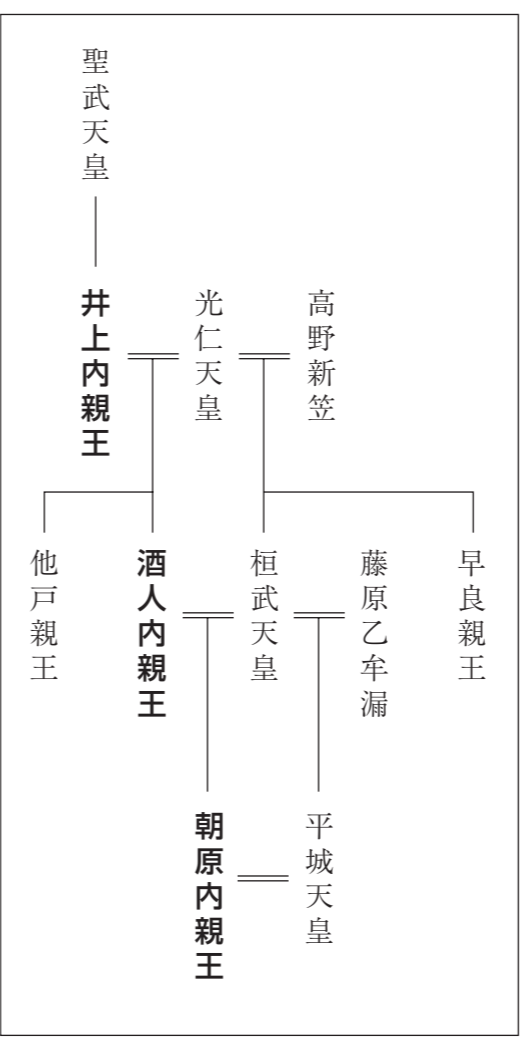
さて、長岡京遷都は桓武天皇（在位七八一～八〇六）となるわけですが当時の齋王は朝原内親王（大伯以降十五代、桓武天皇皇女）である。系譜を追うと父は桓武天皇、母は同妃酒人内親王（同十三代齋王）、祖母は井上内親王（同九代齋王、聖武天皇皇女）の名前が出てくる。朝原内親王は七八三年（四歳）で卜定、八歳で下向している。発遣の儀は旧

都であったことからこれらの都は存在が薄い。長岡京跡は住宅地であることから発掘・調査は困難であったと思うが大極殿跡も発掘されており完全な中央政治の場であったことがわかる。「皆様方で長岡京のPRをよろしく」と言われたガイドさん、「本紙にはちやんと載っています」と答えておきました。

さて、長岡京遷都は桓武天皇（在位七八一～八〇六）となるわけですが当時の齋王は朝原内親王（大伯以降十五代、桓武天皇皇女）である。系譜を追うと父は桓武天皇、母は同妃酒人内親王（同十三代齋王）、祖母は井上内親王（同九代齋王、聖武天皇皇女）の名前が出てくる。朝原内親王は七八三年（四歳）で卜定、八歳で下向している。発遣の儀は旧

都平城京で行われ天皇みずから酒人内親王を伴って平城京へ行幸し、大和の国境まで天皇はじめ百官が見送る異例の儀式であった。その直後、天皇不在の長岡京で、腹心の藤原種継が暗殺され連座の罪により叔父で皇太子の早良親王が廃せられ安殿親王（平城天皇）が立てられる事件があった。その後、長岡京では桓武天皇の身に不吉な出来事が頻繁に起こった。肉親に死者が多く出たことで、冤罪で誅された早良親王の怨霊の噂がでたことが平安遷都を決行した理由ではなかったのか。

平安遷都の二年後十八歳で退下しているが身内の不幸によるものでないことから、安殿親王（平城天皇）と結婚するためではないかと思われる。母は「浪費が激しく派手な交友、華やかな催しを好んだ」わがままな女性といわれた。祖母は天皇を呪詛したとして我が子である皇太子とともに廃后、廃太子されている。また、自身も「菓子の変」に巻き込まれている。冤罪、謀殺、怨霊の時代、政争に巻き込まれた史上唯一の女系三代齋王たちである。



齋王と権力闘争

会場 東谷泰明

齋王は天照大神に仕える清浄な女性。国家の権力争いとは無縁の存在のはずだが、人間の世界、言ってみれば命ある者全て、生きていること自体が生存競争にさらされている。齋王もその例外ではない。いや、例外どころではない。天皇という絶対権力者の内親王であるかぎり、否が応でも国家権力を継承する争いの渦に巻き込まれていかざるを得ない。

愛する者と別れる歴史的な絶唱となっている。井上内親王は聖武天皇の第一皇女で母親は梶犬養広刀自。七十二年齋王に卜定。七七四年、兄安積親王が恭仁京でなくなつたので退下された。この兄も有力な皇位継承者であったが、藤原氏以外の出自であったため、死亡の背後に藤原仲麻呂が見え隠れしている。井上内親王はこれよりのち権力抗争に翻弄され続ける。七七〇年予想だにしなかつた光仁天皇の皇后となり絶頂期を迎え、その二年後、今度は夫天皇を呪つた罪を着せられ、廃后。七七五年には奈良県五條市に廃太子された息子の他戸親王とともに幽閉され薨去。これらはすべて、皇位を継承していく権力抗争の中で起こっている。また井上内親王の娘酒人内親王の場

そもそも歴史的初第齋王の大伯皇女は、父天武天皇が壬申の乱で近江朝廷（大友皇子）を転覆させることを天照大神に祈願し、実現したそのことで伊勢齋王として齋宮に來られた。そして、その後、弟大津皇子は権力継承争いに敗れ、持統天皇となる皇后によって死を賜った。大伯齋王の「あかときつゆにわがたちぬれし」「二上山をいろせとわがみむ」は

愛する者と別れる歴史的な絶唱となっている。井上内親王は聖武天皇の第一皇女で母親は梶犬養広刀自。七十二年齋王に卜定。七七四年、兄安積親王が恭仁京でなくなつたので退下された。この兄も有力な皇位継承者であったが、藤原氏以外の出自であったため、死亡の背後に藤原仲麻呂が見え隠れしている。井上内親王はこれよりのち権力抗争に翻弄され続ける。七七〇年予想だにしなかつた光仁天皇の皇后となり絶頂期を迎え、その二年後、今度は夫天皇を呪つた罪を着せられ、廃后。七七五年には奈良県五條市に廃太子された息子の他戸親王とともに幽閉され薨去。これらはすべて、皇位を継承していく権力抗争の中で起こっている。また井上内親王の娘酒人内親王の場

長岡京に研修に訪れ、長岡京と平城京、さらには平安京のことを含めて桓武天皇を書くつもりだった。し

かし朝原内親王のことを思っているうちに三代にわたる齋王（井上、酒人、朝原）という運命的な歴史からどうしても離れられなくなつてしまった。この後の齋王たちはあまりどろどろとした権力継承の波に飲み込まれることがなくなつたように見える。それはおそらく表面的には藤原氏を中心とした日本の官僚社会が成熟し、また延喜式の成立など成文化された法律により、平安社会が安定期を迎えることとなつたためだろう。最後に、長岡京でお世話になつたガイドボランティア代表の方がおっしゃつた切実な一言を掲載しておく必要がある。「わずか一〇年ですが、日本の歴史に長岡京時代があつたということ齋王まつりのパンフレットにも書いておいてほしい」とのこと。誠にものつともなことだと思ふ。

図書館の紹介

私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
―地元で読める齋宮関係図書のご紹介―

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として	郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に	齋王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	「齋王」を小説で読んでみたい方に	「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に
谷口布有緒文 里中満智子画「齋王ロマン 都わすれの詩」明和町◎☆ 中野イツ著「齋宮物語」明和町◎☆ 山川修司著「語り部の竹の齋王語り」近代文芸社◎☆◇ 榎村寛之著「伊勢齋宮と齋王」塙書房☆	奥井宏忠著「別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮」光書房◎◇ 明和町教育委員会編「郷土史に見る齋王」◎◇ 三重の文化財と自然を守る会編「伊勢齋王宮の歴史と保存」◎◇ 「同Ⅱ」◇	田畑美穂著「齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―」中日新聞本社◎◇ 村井康彦監修「齋王の道」向陽書房◎☆◇	内田康夫著「齋王の葬列」角川書店◎◇ 池田美由喜著「鷲草―大津皇子とその姉と―」新風舎◇ 郡俊子著「倭姫宮の御巡行」勢陽文芸◎◇ 々々 「伊勢齋王の恋」近代文芸社◎◇ 々々 「哀しみの伊勢大来齋王」近代文芸社◎◇	津田由伎子著「齋王」学生社◎◇ 山中智恵子著「齋宮女御徽子女王―歌と生涯―」大和書房◎◇ 々々 「齋宮志」大和書房◎◇ 々々 「続齋宮志」砂子屋書房◎◇ 々々 「齋宮筋記」砂子屋書房◎◇ 所京子著「齋王和歌文学の史的探究」国書刊行会◇ 々々 「齋王の歴史と文学」国書刊行会◇ 榎村寛之著「律令天皇制祭祀の研究」塙書房◇ 中川ただもと著「齋宮和歌の解釈と鑑賞」紫明の会☆ 服藤早苗著「歴史のなかの皇女たち」小学館☆



竹神社お祓い



みんなで頑張ります。



どしゃぶりの雨の中カッパ姿で準備



くい打ち



後援 民族衣裳文化普及協会



打ちあわせと準備

第28回(平成22年度)齋王まつり実行委員会活動

1月 12日(月) 会計監査(久世晃 浅尾美代子 森下 清 野畑久子) 16日(土) 役員会 18日(月) 着付け衣裳出し(いつきのみや) 22日(金) 花の窟神社来所(事務局対応) 24日(日) 実行委員会総会	2月 7日(日) 視察研修(奈良方面) 18日(木) 役員会(群行出演者書類選考) 24日(水) 総務財務・会場・まつり実施班合同会議 28日(日) 「梅まつり」協賛(齋宮歴史博物館)	3月 1日(月) 齋宮小学校4年生社会見学 (齋王まつりについて4年生80名 事務局対応) 3日(水) 着付け衣裳調査 7日(日) 子ども説明会(子ども齋王抽選等 中央公民館) 14日(日) 齋王役選考会(中央公民館) 31日(水) アトラク出演者応募締切り	4月 14日(水) アトラクション出演者会議 16日(金) 齋王市出店者会議 18日(日) 齋宮地区自治会長会議出席(協賛金について) 23日(金) 全体会議 25日(日) ステージ作業・看板等作業	5月 9日(日) 群行出演者説明会 10日(月) 知事表敬訪問 16日(日) 子ども出演者説明会(齋宮歴史博物館) 18日(火) アトラクション出演者最終会議 21日(金) 齋王市出店者最終会議 着付け教室(着付け班) 23日(日) のぼり立て作業 28日(金) 最終全体会議 30日(日) 作業(ステージ等) 依頼した群行出演者説明会	6月 1日(火) FM三重取材(事務局対応) 3日(木) 衣裳出し(着付け班) 4日(金) ステージ作り 5日(土) 前夜祭・禊の儀 6日(日) 齋王群行 9日(水) 衣裳片付け 13日(日) 会議室・倉庫片付け まつり打上(喫茶ロマン)	7月 12日(月) フォトコンテスト応募締切り 21日(水) フォトコンテスト1次審査 22日(木) 役員会(フォトコンテスト入賞・入選作品審査) (応募者75名 応募作品189点)	8月 8日(日) フォトコンテスト入賞者表彰式(齋宮歴史博物館)	9月 4日(土) 会計監査(1月~8月末迄) 8日(水) フォトコンテスト入賞作品 撤去 後 明和町郵便局 展示(10月6日まで) 10日(金) 臨時総会 22日(水) 「いつきのみや十五夜観月会」協力(齋王役・瀬田明) 着付け班協力	10月 1日(金) (財)国史跡齋宮跡保存協会と齋王ストラップ委託販売契約 8日(金) 役員会(ポスターについて 他) 15日(金) 東海地区郵便局長集いに歴代ポスター貸出 23日(土) 浪漫まつり協力(齋王役 瀬田明 女官役 園田晴 小田真麻)	11月 2日(火) フォトコンテスト入賞作品展示 (百五銀行 齋宮支店11月30日まで) 7日(日) 「きものまつり」協力おかげ横丁にて十二単装着実演 瀬田明 9日(火) 役員会(出演者募集について) 14日(日) 古道まつり(明星)出演協力 18日(木) 衣裳片付け	12月 1日(水) 齋王役募集開始 27日(月) 事務局仕事納め
--	---	--	---	---	--	--	----------------------------------	---	--	---	-------------------------------------

第29回(平成23年度)齋王まつり実行委員会組織体制

役職名	代表 森下 清 副代表 笛川 浩 副代表 田中 貢 副代表 岩佐康則 事務局 山中 いずみ							
会計監事	久世 晃 朝倉惟夫							
顧問	名誉会長(町長) 中井幸充 木戸口眞澄(初代会長) 西場信行 大野秀郎 小田秀雄 北岡 泰 辻 正信 辻 丈昭 橋本久雄 山川充造							
相談役	辻 孝雄 北村純一 東谷泰明 森島啓之 西川道子							
小委員会名	任務分担の内容	構成する委員の氏名						
総務班・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 齋王市の実施	◎竹内克巳	○西村直克 八田秀穂	○間宮一彦 堀木茂生	大西俊次郎 森島啓之	辻 孝雄 森西捨巳	中川裕正	10
	着付け会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎東谷泰明	○北川和樹 橋本久雄	石田豊喜	澤 恒一	田端幸男	中瀬正実	7
着付け班	着付け準備と後片付け	◎新田一子	○清水清子 菊矢照子 丸山敬子	○田中政子 富山富子 安井澄代	○西宮幸代 夏井ちはる 森 洋子	衣斐喜代美 西川美代子 竹内 喜子	榎本英子 服部益子	15
まつり実施班	前夜祭の実施 禊の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施	◎関岡武夫	○北岡 泰 ○森田 均 北山房夫 中西修一 辻 満寿美	○北村哲也 ○森津津子 小林順一 中村好富 永島せい子	○土井祐治 石田藤生 小林邦久 西岡信行 東谷泰介	○西山浩一 伊申金市 佐々木久夫 長谷川新	○早川潤一 亀村定雄 田中真司 清水恵子	24
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎山内 理	○八田明美	内山克巳				3

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。



検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に桂を重ね、打衣、表着の上に乗せるような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、桂、単となっています。唐衣は衿、衿合わせがなく、上からはおりません。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の衿仕立てです。打衣は碇で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。桂は、內衣の意味で、垂領、広袖の衿仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は桂と同形ですが、衿、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

13番 日陰の糸 又は玉かずら

1. 垂髪
 2. 唐衣
 3. 表着
 4. 打衣
 5. 衣（桂）（枚数を重ねている）
 6. 単
 7. 長袴
 8. 裳（全体）
 9. 裳の小腰
 10. 裳の引腰
 11. 櫛扇（柏扇）
 12. 帖紙
 13. 日陰の糸（玉かずら）
- ※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたった近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かちよう】



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

2番 綾

1. 冠
2. 綾
3. 太刀



1
2
3

女孺【にようじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということにはなかつたようです。



内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【によべつとう】



内侍や官旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

齋王フォトコンテスト

齋王賞



「華麗」 津市 江 紹价

町長賞



「齋王群行」 津市 山本 艶子

明和町教育長賞



「観衆に応えて」 明和町 井上 清一

明和町議会議長賞



「せいぞろい」 津市 紀平 茂晴

斎宮歴史博物館長賞



「出番よ急いで」 松阪市 高柳 美鶴代

特別賞



「にこやかな童女」 伊勢市 島田 良平

特別賞



「群行を終えて」 松阪市 阿部 道男

特別賞



「楽しい群行」 志摩市 松井 文郎

特別賞



「禊の儀」 鈴鹿市 小林 恒市

特別賞



「和やかな子供齋王」 伊勢市 島田 てるみ

フォトコンテスト

● 応募方法
 ・ 応募には郵送と齋王まつり事務所受付の2通りがあります。
 ・ 応募作品は応募者本人が撮影したもので1人3点以内、未発表の作品に限ります。
 ・ カラー、白黒作品でサイズは四ツ切のみ
 ・ 応募票の各項目に楷書で記入し、題名、お名前には必ずふりがなをつけてください。
 ・ 応募作品の裏面に応募票を貼付してください。(コピーも可)

● 締切
 ・ 平成23年7月15日(金)消印有効

● 郵送方法について
 ・ 郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。

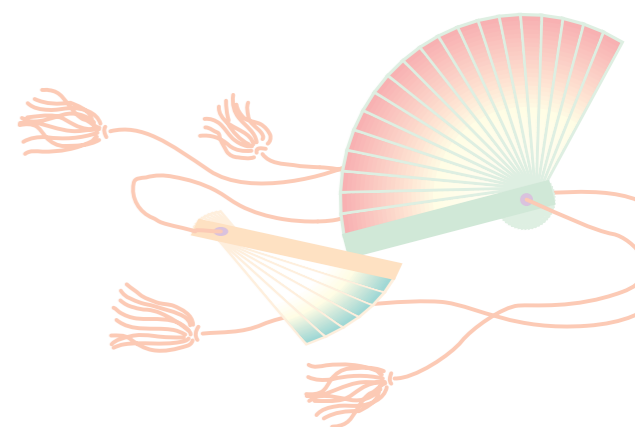
● 選考方法・入賞・入選
 ・ 作品は齋王まつり実行委員会で選考いたします。

・ 入賞は、5賞(齋王賞他)、入選20点程度とします。
 ・ 発表は、8月5日前後、新聞紙上にて発表します。
 ・ 入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることがあります。
 ・ パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用权は主催者に帰属します。

● 作品の返却
 ・ 応募作品はご返却いたしません。

● 応募先
 齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆ 応募・問い合わせ先
 〒515-1032 三重県多気郡明和町齋宮2811番地
 齋王まつり実行委員会事務局
 電話 0599615522 / 0599617025 / 0599617075 / 0599617044
 FAX 0599615522 / 0599617075 / 0599617044





第26代齋王役
瀬田 萌

齋王まつりに参加して

「齋王、出発します」——色とりどりの照明の中にホタルの光が舞う前夜祭。実行委員の方がインカムの向こう側に発したその言葉で二歩をふみだしました。花火とともにあがった歓声、拍手やフラッシュに手をひかれ、舞台上のみなさんの気配に背中をおされ……。少しでものぼりやすいようにと直前まで工夫してくださったスロープを進み、たどりついた襖台からの景色は万華鏡を覗いたようにさらさらと輝いてみえました。つややかな二胡の調べは自分を齋王のもとへと運んでくれるようでした。

発遣の儀を終え、笑顔で旅立つことを誓ったとき、意識が手元から自然に上へ向かっていきました。葱華輦を通りぬける風が心地よく、数々の思いがこの道の深くに在ることを感じながら、見守ってくださいさっている沿道の方々に届けていけるようにと祈っていました。

あざやかな平安絵巻の裏にもかげがえのない物語がありました。これからもこの地にたくさんさんの心が通い、歴史がかさねられていくことを願っています。



子ども齋王
石川 綾美

子ども齋王を務めて

私にとつて、『齋王まつり』は初めてのことばかりでした。

記者会見や開会宣言のときは、とても緊張したし、群行のときはたくさんの方に写真を撮ってもらったり、ふだんの生活ではありえないことばかりでした。でもとても楽しくて、いい思い出になりました。

また、大人になったら出てみたいと思います。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

野花菖蒲の咲く初夏、

齋王まつりの季節です。

齋王まつり実行委員会 森下 清

飛鳥時代の大来から南北朝時代の祥子まで約六〇年間、飛鳥、奈良、京の都から天皇の御杖代として伊勢神宮に仕えるため、ここ「齋宮」に遣わされた五十数代の齋王やこの地に関わった人々を偲び「齋王まつり」は始まりました。まつりの群行は、一番華やかだった平安時代の群行を再現したものです。

齋王まつりは、今年で二十九回目の開催になります。実行委員会のメンバーはみんなボランティアです。ここまでがんばれたのも、地元住民のみなさん、協賛企業のみなさん、齋王市出店のみなさん、アトラクション出演のみなさん、明和町役場のみなさん、全国から応募いただいた群行主演者のみなさん、報道関係のみなさん、観客のみなさん、数え上げればきりがありません。本当にたくさんの方々に応援していただいたおかげと感謝しています。

三月、東日本大震災が起りたくさんの被災者ができました。心よりお悔やみとお見舞い申し上げます。私たちは、まつりを通して元気を被災地に届けたいと思っています。



主催／齋王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、国土交通省三重運輸支局、齋宮歴史博物館、(財)国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274